

長谷川エース狙う

【長野】スピードスケート連盟主催最終日は29日、下の第41回全日本スプリング選手権大会(日本スケート連盟主催)が行われた。男子ト選手権大会(日本スケート連盟主催)が行われた。男子ト選手権大会(日本スケート連盟主催)が行われた。



【男子1000m・2回目】初優勝に向けて懸命の滑りを見せた長谷川翼

長谷川 短距離界に新星

男子短距離界に新時代の到来だ。22歳の期待の若手長谷川翼が「スプリンター」日本一の称号を手にした。大きな優勝カップを重そうに持ち、「自分が1位になったなんて、思ってもいなかったのですね」。表彰台で満面の笑みを見せた。前日の500mで自身初の国内34秒台をマーク。日本電産サンキョーの加藤条治監督兼選手から「五輪でメダルを取った。長谷川翼、加藤条治の全盛期のレベルに入ってきている」と高い評価を受けた。

この日は得意の500mを力んで失速。35秒24で4



男子総合で初優勝を飾った長谷川翼(中央)。左は2位の羽賀亮平、右は3位の中村駿佑

男子総合で初優勝を飾った長谷川翼(中央)。左は2位の羽賀亮平、右は3位の中村駿佑

羽賀亮平は3大会ぶりに3度目の優勝まであと一歩だった。500mの秒換算でわずか0秒02。「どうしても勝たなかったのが悔しい。たまたま満足している面もある」と振り返った。最後の1000mは1分10秒30。7年前のバンクーバーオリンピック日本代表選手権競技会で出した国内自己記録の1分10秒35を久しぶり突破した。

今季前半は苦しんだ。全日本距離別選手権は短距離2種目とも表彰台を逃した。辞退者が出てつかんだW杯アスタナ大会で、腰を痛めた。足も万全でなく、この1カ月間は思うような練習ができていない。「これだけのパフォーマンスができたことは良かった。後半戦に向け、もう一度自分を見詰め直し、世界の上位の選手と戦えるようにしたい」と意気込んだ。

大きな飛躍を遂げている。ワールドカップ(W杯)アスタナ大会(カザフスタン)では500mの2レリースも34秒78をマークし、それぞれ6位と5位。表彰台は間近だ。加藤監督は「もともとこのきれいなフォームに、今季は水にしっかりと力が伝わっている」と急成長の要因を挙げる。シャニール・デービスコーチ(米国)からは「コーナーワークを教わった」。

全日本は制したが、世界距離別選手権やアジア冬季大会などこれからの活躍。「34秒台を本々そろえるくらいでないと監督に追い付いたとは言えない。エースと呼ばれる存在にならないと。結果を残したい」と気を引き締めていた。

羽賀亮平は3大会ぶりに3度目の優勝まであと一歩だった。500mの秒換算でわずか0秒02。「どうしても勝たなかったのが悔しい。たまたま満足している面もある」と振り返った。最後の1000mは1分10秒30。7年前のバンクーバーオリンピック日本代表選手権競技会で出した国内自己記録の1分10秒35を久しぶり突破した。

今季前半は苦しんだ。全日本距離別選手権は短距離2種目とも表彰台を逃した。辞退者が出てつかんだW杯アスタナ大会で、腰を痛めた。足も万全でなく、この1カ月間は思うような練習ができていない。「これだけのパフォーマンスができたことは良かった。後半戦に向け、もう一度自分を見詰め直し、世界の上位の選手と戦えるようにしたい」と意気込んだ。

大きな飛躍を遂げている。ワールドカップ(W杯)アスタナ大会(カザフスタン)では500mの2レリースも34秒78をマークし、それぞれ6位と5位。表彰台は間近だ。加藤監督は「もともとこのきれいなフォームに、今季は水にしっかりと力が伝わっている」と急成長の要因を挙げる。シャニール・デービスコーチ(米国)からは「コーナーワークを教わった」。

全日本は制したが、世界距離別選手権やアジア冬季大会などこれからの活躍。「34秒台を本々そろえるくらいでないと監督に追い付いたとは言えない。エースと呼ばれる存在にならないと。結果を残したい」と気を引き締めていた。

高木美連覇逃す 郷は3位

力が出せた 高木

○：高木美帆は2連覇を逃したが、W杯で好成績を出し続けたスプリンター選手の中で堂々の2位。アジア冬季競技大会 来年2月20、23日・帯広の全種目で日本代表の権利を得るほどの超万能力の存在を示した。

最終日の500mは、38秒25で国内外を自己ベストをマークした。500mでも優勝した1000mは、2本とも小平奈緒を抑えて1位を獲得。2本目は1分15秒21と国内自己記録を塗り替えて、「自分の力が出せた」と喜んだ。

W杯は3大会連続で表彰台に立っている。「世界距離別も上位にいけないところまで来ている。トップを追い越した」。

○：郷亜里砂は総合の表彰式で、誰よりもうれしそうに笑顔を見せた。2日間4レースすべてで表彰台に立った。最後の1000mは、先行型の同走の辻麻希を出しつけない」と更なる高みを目指す。

29歳となった今季は苦手だったウエートトレーニングに精力的に取り組み、食事量も多くなった。この1年で体重は3kgほど増え、パワーが付いた。W杯で過去最高の4位に入るなど努力が実りつつある。「1時間はかかったが、諦めずに頑張ってきた良かった」と喜ぶ一方、「500mで37秒台を出しつけない」と更なる高みを目指す。

29歳となった今季は苦手だったウエートトレーニングに精力的に取り組み、食事量も多くなった。この1年で体重は3kgほど増え、パワーが付いた。W杯で過去最高の4位に入るなど努力が実りつつある。「1時間はかかったが、諦めずに頑張ってきた良かった」と喜ぶ一方、「500mで37秒台を出しつけない」と更なる高みを目指す。

29歳となった今季は苦手だったウエートトレーニングに精力的に取り組み、食事量も多くなった。この1年で体重は3kgほど増え、パワーが付いた。W杯で過去最高の4位に入るなど努力が実りつつある。「1時間はかかったが、諦めずに頑張ってきた良かった」と喜ぶ一方、「500mで37秒台を出しつけない」と更なる高みを目指す。



【女子1000m・2回目】1分15秒21のタイムで優勝した高木美帆

地元で結果を

女子総合4位・辻麻希の

取れる可能性の高い種目もある。狙っていきい」と力を込めた。

最後は気持ちで郷

体慣れしてきた

(29日、7位以下関係分)

【男子】
▽7500m・2回目
世界記録 パベル・クリズニコフ(ロシア) 33秒98
日本記録 加藤 条治(日本電産サンキョー) 34秒21
国内最高 加藤 条治(日本電産サンキョー) 34秒64
大会記録 及川 佑(大和ハウス工業) 35秒12
リンク記録 加藤 条治(日本電産サンキョー) 34秒64
ペッカ・コスケラ(フィンランド) 34秒64
①加藤 条治(日本電産サンキョー) 35秒06
=大会新
35・14
②村上 右磨(村上電気) 35・21
③羽賀 亮平(日本電産サンキョー) 35・21
④及川佑(大和ハウス工業) 35・249
⑤長谷川翼(日本電産サンキョー) 35・249
⑥山中 大地(電算) 35・56
⑦長島圭一郎(リカバリー) 35・62
⑧後藤車也(日大) 35・86
⑨阿部啓吾(法大) 35・90
⑩辻本一史(専大) 35・93
⑪山田将矢(日大) 35・98
⑫沼崎高行(道東電機) 36・08
⑬佐々木奨之(日大) 36・11
⑭小坂龍(福井県体協) 36・12
⑮久保向希(白樺学園高) 36・15
⑯石川斗来(同) 36・20
⑰松井大和(日大) 36・40
⑱大和田真(日本建物管理) 36・61
⑲小原慶雅(高崎健大) 37・34
⑳三輪準也(フィットラボ) 37・72
▽1000m・2回目
世界記録 シャニール・デービス(米国) 1分6秒42
日本記録 長島圭一郎(日本電産サンキョー) 1分8秒09
国内最高 長島圭一郎(日本電産サンキョー) 1分9秒74
大会記録 近藤 太郎(専大) 1分10秒12
リンク記録 キエルド・ナウス(オランダ) 1分8秒46
①藤野 裕人(茨城県競技本部) 1分9秒49
=国内最高
②中村 駿佑(EH) 1・9・96
=以上大会新
③中村 奨太(ロジネットジャパン) 1・10・300

④羽賀 亮平 1・10・302
⑤長谷川 翼 1・10・35
⑥三輪 準也 1・10・56
⑦大和田真 1・10・75
⑧小坂龍 1・10・93
⑨村上右磨 1・11・27
⑩山田将矢 1・11・31
⑪久保向希 1・11・32
⑫及川佑 1・12・26
⑬辻本一史 1・12・34
⑭長島圭一郎 1・12・41
⑮小原慶雅 1・12・71
⑯松井大和 1・13・08
⑰石川斗来 1・13・15
⑱阿部啓吾 1・13・29
⑲後藤車也 1・13・66
⑳沼崎高行 1・14・51
㉑佐々木奨之 1・14・66
▽4種目総合(最終成績)
世界記録 ミシェル・ムルダー(オランダ) 136.790
日本記録 加藤 条治(日本電産サンキョー) 137.790
大会記録 長島圭一郎(日本電産サンキョー) 141.985
リンク記録 ミシェル・ムルダー(オランダ) 139.885
①長谷川 翼 140.810
②羽賀 亮平 140.820
③中村 駿佑 141.440
④藤野 裕人 141.555
=以上大会新
⑤加藤 条治 142.145
⑥山中 大地 142.295
⑦村上右磨 142.330
⑧及川佑 142.995
⑨小坂龍 143.250
⑩山田将矢 143.390
⑪久保向希 143.540
⑫辻本一史 144.460
⑬長島圭一郎 144.535
⑭大和田真 144.725
⑮後藤車也 145.105
⑯阿部啓吾 145.175
⑰松井大和 145.605
⑱石川斗来 145.655
⑲佐々木奨之 146.165
⑳沼崎高行 146.575
㉑小原慶雅 147.420
㉒三輪準也 167.885
【女子】
▽7500m・2回目
世界記録 李 相花(韓国) 36秒36
日本記録 小平 奈緒(相澤病院) 37秒29
国内最高 小平 奈緒(相澤病院) 37秒75
大会記録 小平 奈緒(相澤病院) 38秒06
リンク記録 李 相花(韓国) 37秒90
①小平 奈緒(相澤病院) 37秒91
=大会新
②高木 美帆(日体大) 38・25
③郷 亜里砂(イヨテツ山梨学院大) 38・26
④辻 麻希(開西病院) 38・27
⑤神谷衣理那(高堂建設) 38・43
⑥山田 梨央(信州大) 39・18
⑦浅野実久(高崎健大) 39・39
⑧辻本有沙(電算) 39・40
⑨松田有幾(ジョイフィット) 39・42
⑩太田風砂(信州大) 40・63
⑪宇佐見鈴音(帯農高) 40・64
⑫野寺優奈(高崎健大) 40・64
⑬永田希絵(同) 40・67
⑭加藤梨乃(日体大) 40・80
⑮高橋菜那(ダイイチ山梨学院大) 40・90
⑯坂田心(信州大) 41・23
⑰虫狩光桜(山梨学院大) 41・91
※稲川くるみ(帯三条高) は失格
▽1000m・2回目
世界記録 プリタニー・ボウ(米国) 1分12秒18
日本記録 小平 奈緒(相澤病院) 1分13秒98
国内最高 小平 奈緒(相澤病院) 1分15秒08
大会記録 小平 奈緒(相澤病院) 1分16秒11
リンク記録 ヘザー・ベルフスマ(米国) 1分14秒81
①高木 美帆 1分15秒21
②小平 奈緒 1・15・54
=以上大会新
③郷 亜里砂 1・16・15
④辻 麻希 1・16・50
⑤神谷衣理那 1・17・70
⑥山田 梨央 1・18・075
⑦松田有幾 1・18・41
⑧辻本有沙 1・18・99
⑨浅野実久 1・19・23
⑩高橋菜那 1・19・79
⑪山根佳子 1・20・32
⑫野寺優奈 1・20・99
⑬太田風砂 1・21・03
⑭宇佐見鈴音 1・22・42
⑮加藤梨乃 1・22・55
⑯永田希絵 1・22・65
⑰虫狩光桜 1・23・96
⑱坂田心 1・24・10
▽4種目総合(最終成績)
世界記録 ヘザー・リチャードソン(米国) 147.735
日本記録 吉井小百合(日本電産サンキョー) 150.490
大会記録 小平 奈緒(相澤病院) 152.645
リンク記録 于 静(中国) 151.275
①小平 奈緒 151.595
②高木 美帆 152.065
=以上大会新
③郷 亜里砂 152.815
④辻 麻希 153.580
⑤神谷衣理那 154.415
⑥山田 梨央 157.275
⑦松田有幾 157.815
⑧辻本有沙 157.940
⑨浅野実久 158.275
⑩山根佳子 160.450
⑪高橋菜那 161.220
⑫太田風砂 161.520
⑬野寺優奈 162.905
⑭永田希絵 163.240
⑮加藤梨乃 163.970
⑯宇佐見鈴音 164.205
⑰坂田心 166.360
⑱虫狩光桜 167.620

たもの、総合で小平奈緒(相澤病院)に届かず2位。小平は2大会ぶりに5度目の栄冠に輝いた。郷亜里砂(イヨテツ山梨学院大) 白樺学園高出) が3位と健闘。辻麻希(開西病院)は4位。神谷衣理那(高堂建設)は5位だった。加藤条治(日本電産サンキョー)が男子500mを35秒06で制し、後半戦の国際大会の代表に復帰した。(北雅貴、金野和彦)



女子総合入賞者。前列左から、4位辻麻希、5位神谷衣理那、6位山田梨央。後列左から、2位高木美帆、優勝小平奈緒、3位郷亜里砂

技術面も一から

女子総合5位・神谷衣理

その話 2日間とも力が入

また1カ月あるので、